# たしざん・かけざんだけでまなぶりょーしりき がく

低音

October 1, 2024

### 2025年物性物理夏の学校やります!!!

- 全国の物性物理関連の大学院生が集結
- 4泊5日の集中合宿
- 講義・集中ゼミで最先端研究をキャッチアップ
- 学会形式で自分の研究を発表

参加・斡旋・各種協賛お願いします!!!

### 自己紹介: 低音

- 京大 基礎物理学研究所 M1
- 専門は凝縮系理論物理
- ■登山・自転車が趣味
- note「ペンローズのグラフ記法」

### このセミナーで登場しないもの

- ■実験事実
- ■波動関数
- シュレディンガー方程式
- ■微積分
- ■三角関数

#### なぜ「物理」をやらないのか?

#### 1 現象が直観とかけ離れている

- 状態の重ね合わせ?
- 測定したら状態が変わる?
- 位置と速度が同時に決まらない?
- 量子もつれ?

#### 2 学部1年の線形代数だけで理解できる

- 複素ベクトル
- エルミート行列
- ユニタリ行列

#### 計算できるようになると、なぜか感覚を掴めてくる

- 1 べくとるとぎょーれつ
- 2 こゆーほーてーしき
- 3 考えたい理論体系
- 4 ひょーげんろん
- 5 ぶんるいもんだい

#### ベクトル

ベクトルは数がいっぱい並んだもの。4つ数が並ぶと4次元。 量子力学のお約束に従って、ブラ・ケットで書くと、後々直感的 にわかりやすい。

$$|1,2,4,3\rangle = \begin{bmatrix} 1\\2\\4\\3 \end{bmatrix} = - \boxed{|1,2,4,3\rangle}$$

$$\langle 1,2,4,3|=egin{bmatrix} 1&2&4&3\end{bmatrix}=egin{bmatrix} \langle 1,2,4,3| \end{pmatrix}$$

量子力学ではベクトルは状態を表すので、<mark>状態ベクトル</mark>と呼ぶことにする。

#### 状態ベクトルの足し算

同じ次元のブラ同士、ケット同士なら単純に足すだけ。

$$\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 4 \\ 3 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 5 \\ 3 \\ 1 \\ 4 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 6 \\ 5 \\ 5 \\ 7 \end{bmatrix}$$

次元が違うもの、ブラとケットは足せない。 足し算の延長でスカラー倍もそのまま。

$$3\begin{bmatrix}1\\2\\4\\3\end{bmatrix} = \begin{bmatrix}3\\6\\12\\9\end{bmatrix}$$

## 状態ベクトルどうしの掛け算 (内積)

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 & 4 & 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 5 \\ 1 \\ -3 \\ 2 \end{bmatrix} = 1 \cdot 5 + 2 \cdot 1 + 4 \cdot (-3) + 3 \cdot 2$$
$$= 1$$

具体的な計算をしないなら、お絵描きしたほうがわかりやすい。

$$\boxed{\langle 1, 2, 4, 3 | \boxed{|5, 1, -3, 2\rangle} = 1}$$

脚が出てないので状態ベクトルじゃない。

### 一方その頃量子力学では

量子力学では、すべての情報はベクトルが持っている. 状態ベクトル=状態。

#### prop. 1: 測定により $|\psi angle$ が測定される確率

$$P_{\psi} \propto \langle \psi | \psi \rangle = \left[ \langle \psi | - | \psi \rangle \right]$$

状態って???

→詳しい話はこの後

### 行列の状態ベクトルへの作用

$$\begin{bmatrix} \mathbf{1} & 2 \\ -1 & \mathbf{4} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ -2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \mathbf{1} \cdot \mathbf{1} + 2 \cdot (-2) \\ -1 \cdot \mathbf{1} + \mathbf{4} \cdot (-2) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -3 \\ -9 \end{bmatrix}$$

こういうのを

$$\begin{split} \hat{H} \left| \psi \right\rangle &= \left| H \psi \right\rangle \\ - \left[ \hat{H} \right] - \left[ \left| \psi \right\rangle \right] &= - \left[ \left| H \psi \right\rangle \right] \end{split}$$

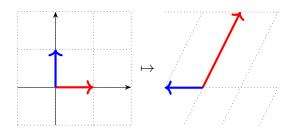
みたいに書く。 $\hat{H}$  は状態ベクトルを状態ベクトルにするので脚が 2 本。

$$\hat{H} = -\hat{H}$$

### 矢印で理解するなら

$$\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} : \begin{pmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix} \end{pmatrix} \mapsto \begin{pmatrix} \begin{bmatrix} a \\ c \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} b \\ d \end{bmatrix} \end{pmatrix}$$

#### ベクトルを回転・伸縮



## 行列積

$$\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \begin{bmatrix} e & f \\ g & h \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \alpha \\ \beta \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \begin{bmatrix} e\alpha + f\beta \\ g\alpha + h\beta \end{bmatrix}$$

$$= \begin{bmatrix} a(e\alpha + f\beta) + b(g\alpha + h\beta) \\ c(e\alpha + f\beta) + d(g\alpha + h\beta) \end{bmatrix}$$

$$= \begin{bmatrix} (ae + bg)\alpha + (af + bh)\beta \\ (ce + dg)\alpha + (cf + dh)\beta \end{bmatrix}$$

$$= \begin{bmatrix} ae + bg & af + bh \\ ce + dg & cf + dh \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \alpha \\ \beta \end{bmatrix}$$

$$\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \begin{bmatrix} e & f \\ g & h \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} ae + bg & af + bh \\ ce + dg & cf + dh \end{bmatrix}$$

$$- \begin{bmatrix} \hat{A} - \hat{B} - \hat{B} - \hat{A} - \hat{A} - \hat{B} - \hat{A} - \hat{A} - \hat{A} - \hat{B} - \hat{A} - \hat{$$

## 行列積

$$\begin{bmatrix} A_{11} & A_{12} & \cdots & A_{1N} \\ A_{21} & A_{22} & \cdots & A_{2N} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ A_{N1} & A_{N2} & \cdots & A_{NN} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} B_{11} & B_{12} & \cdots & B_{1N} \\ B_{21} & B_{22} & \cdots & B_{2N} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ B_{N1} & B_{N2} & \cdots & B_{NN} \end{bmatrix}$$

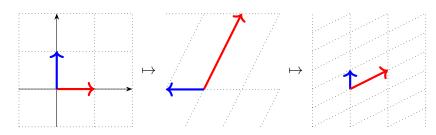
$$= \begin{bmatrix} A_{11}B_{11} + \cdots + A_{1N}B_{N1} & \cdots & A_{11}B_{1N} + \cdots + A_{1N}B_{NN} \\ A_{21}B_{11} + \cdots + A_{2N}B_{N1} & \cdots & A_{21}B_{1N} + \cdots + A_{2N}B_{NN} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ A_{N1}B_{11} + \cdots + A_{NN}B_{N1} & \cdots & A_{N1}B_{1N} + \cdots + A_{NN}B_{NN} \end{bmatrix}$$

$$(AB)_{ij} = A_{i1}B_{1j} + \cdots + A_{iN}B_{Nj}$$

むずそうなことやってるけど、結局は足し算と掛け算がいっぱい あるだけ。

## 矢印で理解するなら

#### 2回の回転・伸縮を合成



### 一方その頃量子力学では

状態を変換すると別の状態になる

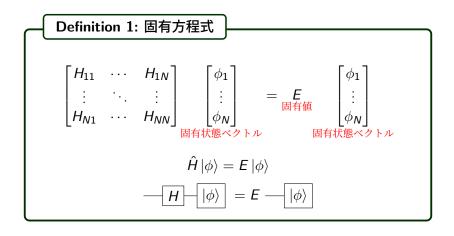
- ■回転する
- ズラす
- 交換する

状態ベクトルを状態ベクトルに移すので、行列による作用で表 せる

$$--[\psi\rangle] \mapsto --[\hat{U}-[\psi\rangle]$$

- 1 べくとるとぎょーれつ
- 2 こゆーほーてーしき
- 3 考えたい理論体系
- 4 ひょーげんろん
- 5 ぶんるいもんだい

### わかる人には一発でわからせる固有方程式



## 固有方程式 定義のポイント

- 両辺の固有状態ベクトル |φ⟩ は同じ
- 固有値 E はただの実数

Hを決めると  $(E,|\phi\rangle)$  の組が (一般には複数個) 出現

$$\hat{H} = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{bmatrix} \Longrightarrow (E, |\phi\rangle) = \left(1, \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}\right), \left(-1, \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}\right)$$

$$\hat{H} = \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix} \Longrightarrow (E, |\phi\rangle) = \left(1, \begin{bmatrix} 1/\sqrt{2} \\ 1/\sqrt{2} \end{bmatrix}\right), \left(1, \begin{bmatrix} 1/\sqrt{2} \\ -1/\sqrt{2} \end{bmatrix}\right)$$

## 手を動かせ

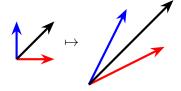
#### e.g. 1: $2 \times 2$ でやってみよう!

$$\begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \cdot 1 + 1 \cdot 1 \\ 1 \cdot 1 + 0 \cdot 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$$
$$\begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \cdot 1 + 1 \cdot (-1) \\ 1 \cdot 1 + 0 \cdot (-1) \end{bmatrix} = -\begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix}$$

一般に行列  $\hat{H}$  から固有値 E と固有状態ベクトル  $|\phi\rangle$  を見つけるのは至難の業 (原理的にはできるが計算が膨大)。

### 矢印で理解するなら

 $\hat{H}\ket{\phi} = E\ket{\phi}$  方向が変わらないベクトルが固有ベクトル。



- 1 べくとるとぎょーれつ
- 2 こゆーほーてーしき
- 3 考えたい理論体系
- 4 ひょーげんろん
- 5 ぶんるいもんだい

これから考える理論体系が満たすべきもの

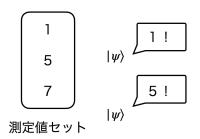
- 1 「物理量」が一般には複数だが限定された「測定値」を持つ
- 2 どんな「物理量」にも**「測定値」がただ一つしか生じない**状態ベクトルが存在する
- 3 任意の状態ベクトルは「測定値」がただ一つしか生じない状態ベクトルたちの**線型結合**で書ける
- 4 ある状態ベクトルの「測定値」が出る確率は、その「測定値」がただ一つしか生じない要請2の状態ベクトルと元の状態ベクトルだけで計算できる

何を言ってるかわからないと思うので説明します。

#### 要請

「物理量」が一般には複数だが限定された「測定値」を持つ

ある状態ベクトルに「測定」を施すと、「測定値」セットのうちど れかが出てくる。

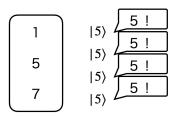


一般に測定ごとに結果が変わる。

#### 要請

どんな「物理量」にも**「測定値」がただ一つしか生じない**状態ベクトルが存在する

何回「測定」を繰り返しても「測定値セット」のうちの1つだけ しか出てこない。



測定値セット

#### 要請

任意の状態ベクトルは「測定値」がただ一つしか生じない状態ベクトルたちの**線型結合**で書ける

測定値 = 
$$\{1,5,7\}$$
  $\Longrightarrow$   $|\psi\rangle = c_1 |1\rangle + c_5 |5\rangle + c_7 |7\rangle$  (3.1)

#### 要請

ある状態ベクトルの「測定値」が出る確率は、その「測定値」が ただ一つしか生じない要請 2 の状態ベクトルと元の状態ベクトル だけで計算できる。

状態ベクトル  $|\psi\rangle$  で「物理量」 $\hat{A}$  を測定して「測定値」 $\hat{a}$  が出る確率

 $\longleftarrow |\psi\rangle$  & 「物理量」 $\hat{A}$  を「測定」すると常に a しか出ない状態ベクトル  $|a\rangle$ 

### 期待値ってなに?

$$\langle \psi | \hat{H} | \psi \rangle = \boxed{\langle \psi |} \boxed{\hat{H}} \boxed{|\psi\rangle}$$

期待値に見える?

→ 固有状態ベクトルに直せばわかる!

### 固有方程式で見る期待値

 $\hat{H}$ の固有値  $E_1, E_2, \ldots$  の固有ベクトル  $|E_1\rangle, |E_2\rangle, \ldots$  により

$$--[|\psi\rangle] = c_1 - -[|E_1\rangle] + c_2 - -[|E_2\rangle] + \cdots$$

と展開すると、

- 1 べくとるとぎょーれつ
- 2 こゆーほーてーしき
- 3 考えたい理論体系
- 4 ひょーげんろん
- 5 ぶんるいもんだい

- 1 べくとるとぎょーれつ
- 2 こゆーほーてーしき
- 3 考えたい理論体系
- 4 ひょーげんろん
- 5 ぶんるいもんだい